

研究開発課題説明資料（中間評価）

1. 課題名（期間）

「地区・都市整備シミュレーション技術の開発」（平成15年度～18年度）

2. 主担当者（所属グループ）

堀崎 真一（住宅・都市研究グループ研究員）

3. 背景及び目的・必要性

地域のまちづくりを通じて生活環境の質を向上するためには、地域の個性、関係者の多様な価値観を反映させた計画案の創造が求められる。しかし、住民参加の現場で従来まで用いられてきた景観シミュレーションは、既成の計画案の表示が主な機能であり、更なる手法の成熟のためには、様々な制度上の制約、経済的な制約を克服しながら妥協点を見いだすためのツールを模索していくことが必要となっている。

本研究においては、都市整備事業を、制度によって規定されるルールの下に、利害関係を異にするステークホルダにより行われるゲームとして捉え、事業形成期における、制度的条件と互いに矛盾する価値尺度の間で、近未来の可能な代替案のシミュレーションを行いながら、計画案の選択を支援するようなロジックを具体化し、合意形成を支援するようなシステムの構築を目指す。

4. 研究開発の概要・範囲

- (1)住民参加による計画案の策定手法及び地区・都市整備事業のロジックの整理を行い、各種条件と物的計画の間のトレードオフ関係をシミュレートした上で、その結果をわかりやすく表現し、比較評価できるようなシステムを構築する。
- (2)モデル的に投入を行う現場を選定し、基礎的なデータ、これまでの経緯、現在から近未来における主要な計画上の論点を調査、収集し、シミュレーションのベースとなる初期条件データを作成する。
- (4)都市整備シミュレータのプログラムを作成する。作成にあたっては、いくつかの代替的な案の比較検討を行うことを想定する。
- (5)事業のシミュレーション結果（いくつかの代替案）が表示できるようになった段階で、現場でのワークショップへの投入などを行う。

5. 達成すべき目標

事業をシミュレートするロジックの整理と、そのロジックを実装した具体例の提示。
少なくとも一つの都市整備の現場における、合意形成のためのワークショップへの投入。

6. 進捗状況（継続課題のみ）

平成15年度は、ロジックの整理のための基礎資料の収集及び、論点の整理と現場選定のための調査、情報・資料収集を行った。